2023 年度　第３回オープン実践研究会報告

実践研究委員 醍醐身奈（横浜商科大学）

2024 年 6 月 2 日(日)　14:00～16：00 に、「2023 年度 第 3 回オープン実践研究会」がオンライン(Zoom)で開催された。実践研究委員会が主催する本研究会は、学校現場における様々な教育実践について報告を行い、情報共有や意見交換を通じてさらに優れた実践につなげていくことを趣旨とし、年 3 回にわたって実施しているものである。

2023 年度の第 3 回目にあたる今回は、「地域に根差した SDGs の教育実践 ～ 地域と学校が循環し合う教育の探究 ～」というテーマで、小学校から高等学校まで各発達段階に応じた教育実践についての報告がなされた。当日の参加者はのべ 50 名ほどとなり、小・中学校、高等学校、および大学の教員(研究者)、学生、一般企業の方々にいたるまで幅広い分野や所属からの参加と活発な意見交換があり、テーマに対する関心の高さがうかがえた。

当日のコーディネーターは祐岡武志委員(阪南大学)、総括は多田孝志委員会顧問（元日本学校教育学会会長・金沢学院大学）が務めた。概要については以下の通りである。

◆　実践報告の内容

(1) 小学校から	東京都奥多摩町立古里小学校	土屋真悟	
たのしいあきいっぱい　～奥多摩の人と環境を生かした体験活動と子供の思いを大切にした授業作り～			
ここでは、小学校 1 年生の生活科の校内研究の実践について発表があった。この学校では研究主題として「自分の考えをもち、表現できる児童の育成」が、副主題として「『持続可能な社会へ』～こどもとつくるまちづくり～」が掲げられていた。実践報告では、①奥多摩の環境を生かした教材開発、②奥多摩ならではの地域人材の活用に関して、自然や地域の人々と子供たちがどのように関わりをもちながら学んだのかについて具体的に説明があった。また、これらを通じて SDGs と関連づけながら引き出したい子供の姿をより引き出すことができたという研究成果につながったことが報告された。			

(2) 中学校から	秋田県大仙市立大曲南中学校	島田 智	
「ストーリー」と「ネットワーク」で紡ぐ ESD 実践 ～地域の力を活用した実践例～			
この学校では、大曲南中 ESD として「学習で身に付けたい力」(批判的に考える力等の 6 つの力)と、「持続可能な開発について考え実践する力」(SDGs に関する知識・技能等)の育成が目標に掲げられている。実践報告では、それらの実現に向けて学年ごとに「ESD カレンダー」や「学びのストーリー」を、生徒には「自己評価シート」を作成させることで、学習の流れや成果を「見える化」する実践の工夫についての説明があった。また、「未来のエコハウスを設計しよう」をはじめとする 3 つの事例が紹介され、それらの活動を通じて生徒の実践的な力を育む研究成果につながったことが報告された。			

(3) 高等学校から	埼玉県立春日部女子高等学校	田中　佐和	
わたしたちが社会を動かす！SDG s で社会とつながる「春女総探プロジェクト」			
この学校では、SDGs に関する学びを基軸として、高１・２学年縦割り講座を設置し、15 の企業・団体等と連携を果たしながら、学校独自の探究活動を進める「春女総探プロジェクト」が実施されている。この取り組みには、自分の手で『社会は変えられる』意識を醸成することを目指しながら、２年生が１年生に前年度の活動内容を引継ぐことにより、単年度の取組みで終わらせず学校全体で内容を深めていくことに特徴がある。この活動を通じて、高校生ならでは視点で社会課題の解決に取り組むことができ、地域社会との信頼関係を深める契機になったこと、また継続的な学びを生徒に提供できることにより、より深い学びの実現につながっていること等が研究成果として報告された。			

◆　総括

実践報告を受けての総括	金沢学院大学教授	多田　孝志	
多田委員会顧問からは、3 つの実践事例について以下のような総括があった。 ● **実践事例(1): 東京都奥多摩町立古里小学校について** ・目指す児童像が明示されており、学び手の思いを大事にした学習づくり、交流活動を重視する等の工夫がなされていた。 ・そうした学習の積み重ねが、普段からゴミを見つけたら拾う等、子供たちの成長(言動や行動の変化)につながっている。 ● **実践事例(2): 秋田県大仙市立大曲南中学校について** ・「未来志向型学びの探究」を主軸に、「過去・現在・未来」におけるストーリー、地域や企業、キリバスとの交流等のネットワークを生かし、「立体型学習」が実践されていた。 ・21 世紀の学習者に求められる知識(思考の基礎的素養としての知識・体験)や、スキル(知識・体験を活用し、協働して思考を深めるためのスキル)の習得、人間性(思考を深めるための人間性の基盤)を形成する「学びの構造」が、子供の実践力を高める基盤になっている。 ● **実践事例(3): 埼玉県立春日部女子高等学校について** ・新たな時代の教育で重視されるべきことは、情報の理解・思考・表現（自己内対話）で生み出される「言葉」と、自然や科学、異文化体験等を通じて様々な「体験」の往還を繰り返すことで「探究心」を醸成し、そこに「対話」が生まれるように工夫をすることである。 ・「対話（自己・他者・事象、社会との対話、グローバルな対話)」を通じて、「聴き合う関係」や「相互支援関係」が生まれ、それが「高次の学びの共創」を生み出す。この実践では、実際に企業や団体と連携することで、社会のリアルと向き合い、様々な社会課題の解決を目指し、「対話」を通じて生徒の主体性や挑戦心を喚起することにつながっている。			

最後に、研究会後に感想アンケート(任意)を取ったところ、参加者 49 名中 28 名からの回答があり、今回の実践発表に関して多くの参加者が興味や関心を示したことが明らかになった。主な感想としては、地域とどのように連携していけばよいのか、具体的な方法や事例をみることにより、自分の実践につなげるヒントがもらえたというものであった。

今後も、学校現場における優れた実践を多くの人々に知ってもらう契機を提供し、優れた教育実践の実現に向けて本研究会が貢献できるよう、積極的に活動をすすめたい。